

## 大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京海洋大学
整理番号	A②-5
事 業 名	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <b>S</b>	事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
コメント 本事業は、上海海洋大学、韓国海洋大学校を相手大学とし、EUのボローニャ・プロセスに準拠した日中韓における単位互換制度により、学部4年次を対象とした導入プログラム、修士学生を対象とした協働教育プログラム、共同学位プログラムにより構成される、海洋分野における協働教育・共同学位プログラムの構築を目的としている。 本プログラムをOQEANOUS(オケアヌス)と名付け、その実施のために3大学のプログラム責任者及び実務担当者が一堂に会するOQEANOUS協議会を事業終了までに14回にわたり開催し、育成すべき人材像、3大学間での質の保証を伴った単位互換スキームに関して継続的に議論し、確立していったことは高く評価できる。その成果として単位互換システム(CTSEA)が構築され、単位互換ガイドライン、ラーニングアグリーメント、コースカタログの導入及び専用ウェブサイトでの公表により、3か国の参加希望学生が事前に履修登録を予約することが可能となっている。更に、日中韓のトリリンガルのコーディネーター2名を配置する等、学生にとってきめ細かい配慮がなされている。質保証を図る取組としては、参加学生に対する調査、ECTSラベルを取得している東京海洋大学の交流協定校の教員による外部評価の結果を3大学で共有・分析し、教育内容の改善に活かしている。 また、プログラムとして、国際海洋科学技術サマープログラム(STP:Short-Term Program)や国際協働教育プログラム(IJP: International Joint Program)に加え、質の高いダブル・ディグリープログラム(DDP:Double Degree Program)も構築し、高い交流実績を挙げており、事業運営が着実に進められたと高く評価できる。 一方で、STP、IJP、DDPの3つのプログラムの派遣・受入学生数の総数は、計画の派遣・受入各43名に対し、達成状況として派遣92名、受入105名と大きく目標値を上回っているものの、単位取得を伴う3か月以上の派遣・受入が計画では各43名中24名(56%)であるところ、派遣は92名中11名(12%)、受入は105名中23名(22%)と大きく下回っている。また、DDPの受入のほとんどが中国からの受入となっており、交流国の偏りが見受けられる。更に、語学力についても改善の余地があり、今後、これらの問題点を明確に捉え、対策を策定した上で事業を遂行していくことを期待したい。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	